

⑫公開特許公報 (A)

昭54-149974

⑤Int. Cl.²
B 07 B 7/10
B 02 C 23/08識別記号 ⑥日本分類
72 C 121
72 A 0府内整理番号 ⑩公開 昭和54年(1979)11月24日
7305-4D
2126-4D
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

④分別機

②特 願 昭53-57903
 ②出 願 昭53(1978)5月16日
 ②發明者 親本俊弥
 同 三原市新倉町6-36
 西田定二
 同 三原市沼田町東町末広315-154
 岡島一郎
 三原市中之町南2341-6

⑦發明者 田島俊美
 尾道市新高山2丁目2631-73
 同 藤原邦久
 広島市観音新町1丁目30-1-203
 ⑦出願人 三菱重工業株式会社
 東京都千代田区丸の内二丁目5番1号
 ⑦代理人 弁理士 坂間暁 外2名

明細書

1. 発明の名称

分別機

2. 特許請求の範囲

下部から上部に向う旋回流が流れる分別室の途中に回転可能な分散板が配置され、同分散板の上部で原料供給口が開口し、上部から軽質物、下部から重質物を排出する分別機において、前記分散板の上部側の前記分別室の壁部に沿つてはばら離状に上る案内板を取付け、かつ、前記分散板の下部に破碎羽根を設けたことを特徴とする分別機。

3. 発明の詳細な説明

本発明は都市ごみ等を軽質物と重質物とに分ける分別機に関する。

従来の分別機を第1図に基づいて説明する。分別室4内に分散板5が配置され、分散板5は電動機2によつて回転させられている。分散板5の上部で原料供給口6が開口し、分散板5上

に原料を供給するようになつてゐる。又、分別室4の上部には電動機1によつて回転させられ、下部から上部に流れる旋回流を形成するファン3が配置されている。

このタイプの分別機は次のような特徴点がある。

- (1) ファン3を内蔵しているので外部からのダクト配管が不用でコンパクトになる。
- (2) 外部への排気が零かまたはごく一部であり、大部分の空気は循環しているので排ガス処理が不要またはごく少量でよい。
- (3) ファン3及び分散板5の回転数を調節することにより、広範囲の被処理対象物に対応できる。

しかしながら、この分別機は分別室4内の気流分布はファン3の翼による旋回流と垂直方向の流速分布が大なることにより、例えば大形のラスチックフィルムなどが滞留し上昇(軽質物)も落下(重質物)もしない場合が多くあり、又、

(1)

(2)

都市ごみ中の厨芥の「かたまり」やコンポストの「かたまり」が分散板で十分分散されず。本来軽質物として回収されるべきものが、重質物側に落下する等の欠点があり、その対象とする被処理物は一般に微細なものしか分別できず大きいものでもピーナッツ、トウモロコシなどがせいぜいである。

そこで本発明は、上記特徴を生かし、尚かつ形状が大きくしかも不定形である都市ごみやコンポストの精製を可能とする分別機を提供することを目的としてなされたものである。

次に本発明を第2図ないし第8図に示す実施例に基づいて具体的に説明する。

分別室4内に電動機2により回転させられる分散板5が配置され、分別室4の上部には電動機1により回転させられ、下部から上部に流れる旋回流を形成するファン3が設けられている。分散板5の上部で原料供給口6が開口し、分散板5の下部には、第6図あるいは第8図に示す

(3)

界気流を起し、ファンを通りサイクロン10に導かれた後、セバレータ吸込タクト11から分別室4の下部に入り、リングベルト8を経て再び分別室4内に戻る循環経路をたどる。

被処理物は原料供給口6より分散板5上に導かれ、分散板5により分別室4内に分散される。分散板5は電動機2により回転されており分散効果をよくしている。

分散された被処理物は風力分別の原理により重質物は上界気流による浮力に抗して落下し、軽質物は上界気流と共にファン3を通りサイクロン10で分離され、軽質物取出口12から取り出される。

重質物はそのまま落下し重質物取出口13から取出す。

ここで分別室4内の空気流速分布はファン3の回転方向に旋回流を伴い、垂直方向には中心部が速く、周辺部が流速大になつていて、特に軽質大型異物、例えばプラスチックフィルム

ように直接あるいは間接的に4~16本の棒状又は板状の金属製の破碎羽根7が取付けられている。なお、破碎効果をよりよくするために分散板5の回転と破碎羽根7の相対速度差を大きくするとよい。分散板5の上部の分別室4の内壁に沿つて案内板9が取付けられている。

案内板9は分別室4内の内壁に沿つて、垂直軸に対し $\theta = 30^\circ \sim 60^\circ$ の角度で、円周方向2~3等分の位置に2~3枚取付けられている。なお最も適当な θ は 45° 付近である。

又、案内板9の断面形状は第5図に示す如く、空気抵抗を少なくすると同時に案内板9上に被処理物が堆積しないよう、三角形になつていて、案内板9の上部側の面の傾きは通常 $70^\circ \sim 150^\circ$ で十分であり、本装置では断面が正三角形としており、これで性能は十分である。

分別室4内で軽質物と重質物に分別されるが、このためにはまず電動機1でファン3を回転させることにより分別室4内に旋回流を伴つた上

(4)

などがつれ回りを起し、分別性能、処理量共に低下する対策として案内板9を取り付け、旋回流の一部を上昇流に変換し、軽質物を浮上させることによる。

また、都市ごみ中の厨芥やコンポストなどそれ自体強固な結合力ではないが「かたまり」を作りやすいものを分別しようとする場合「かたまり」になつていると本来軽質物側に行くべき物が重質物側に落下して分離精度を著しく低下させる。

この結合力の比較的弱い「かたまり」を破碎羽根7により破碎して真の軽質物と重質物を精度よく分別する。

実験例1

都市ごみからの資源回収を目的として、主たる有価物である紙、およびプラスチックを本装置を用いて第9図に示すフローに従つて分別回収した。

このとき分別機(1)では板紙およびタンボ

(5)

(6)

ール等の重質紙類が回収され、分別機(B)では収縮したプラスチック類と軽質紙が回収される。各々の回収率と回収物純度は表1に示す通りであり分別性能に顯著な効果をもたらし、回収物はいずれも満足すべき回収率及び純度を有している。これは。

- (1) 室内板を設けたことにより、処理量が飛躍的に増大する。
- (2) 室内板を設けたことにより、軽質紙(紙)の回収率が増大する。
- など、つれ回りが防止できたために、性能の向上が認められる。
- (3) 破碎羽根を設けたことにより、軽質紙及びプラスチックの回収率及び純度とともに向上する等の作用による。

以下余白

(7)

実験例2

都市ごみからコンポストを作りその製品コンポスト中のガラス細片、土砂、プラスチック類を除去するため本分別機を用いて付図10に示すフローに従つて分別した。

都市ごみからコンポストを製造しようとする場合、コンポスト化装置内または前段で非コンポスト化物を除去するには限界があり製品コンポストからさらに異物を除去して精製コンポストを得る。

このために、10～20mmのふるい目の振動筒で大形異物(布、木片、プラスチックなど)を除去し、ついで本分別機でガラス、土砂などの小形異物を除去して、純度の高い精製コンポストを回収する目的で行つたところ、表2に示すように分別性能に顯著な効果をもたらし、特にコンポスト中のガラス細片を完全に除去できた。

(8)

区分	成 分	分別機(A)		分別機(B)	
		混 合	回 収	混 合	回 収
実験用 案内板なし: 600kg/h 七の他 破碎羽根なし					
紙	1.34	30.3	5.04	31.0	6.87
プラスチック	4.1	1.49	9.2	2.54	8.51
ガラス	2.68	9.57	6.04	1.2	4.5
合計	4.44	4.44	10.00	5.56	5.56
紙	2.5	1.21	2.25	3.60	8.00
プラスチック	2.6	0.95	4.9	2.49	9.05
ガラス	2.67	0.54	7.06	1.3	4.6
合計	3.21	3.71	10.00	6.22	10.00
改良機用 案内板なし: 1000kg/h 七の他 破碎羽根付					
紙	2.5	1.49	2.25	3.60	8.00
プラスチック	2.6	0.95	4.9	2.49	9.05
ガラス	2.67	0.54	7.06	1.3	4.6
合計	3.21	3.71	10.00	6.22	10.00

(8)

これは。

- (1) 破碎羽根を設けたことにより、コンポストに混入するガラスの除去率及び処理量が飛躍的に増大する。コンポストのように比較的弱い結合力による「かたまり」状の物質には、この破碎羽根の効果は極めて高い。
- (2) 室内羽根を設けたことにより、処理量及びコンポスト回収率が向上する。

ためである。

以下余白

備考 分別風速、分別回転数等運転条件は表1、2とともに同じ。

以上本発明を実施例に基づいて説明したが、本発明は、この実施例だけに限定されるものではなく、要は、本発明は、下部から上部に向う旋回流が流れる分別室の途中に回転可能な分散板が配置され、同分散板の上部で原料供給口が開口し、上部から軽質物、下部から重質物を排出する分別機において、前記分散板の上部側の前記分別室の壁部に沿つてはばら線状に上の案内板を取付け、かつ、前記分散板の下部に破碎羽根を設けたことを特徴とする分別機を提供するものであり、この分別機により、従来の接道では分別できなかつた都市ごみ、コンポスト等の大形処理物の分別も可能となした。すなわち案内板により、大形の軽質物もスムーズに外部に取出すことができ、又、軽質物のかたまりも、破碎羽根により破碎し外部に取出すことができるので、大形処理物の分別も可能としたものである。

表2 実験例2の実験結果

品目	処理量	成分	軽質物		重質物		回収率	回収率
			区分	回収量	回収率	回収量		
1 従来型 破碎羽根なし	1000kg/h	コンポスト	6.25	6.48	97.6	5.19	55.2	93.6
		計	2.1	2.15	3.95	2.4	2.5	6.05
2 改良型 案内板付 破碎羽根付	1700kg/h	コンポスト	6.50	6.58	1000	5.62	5.62	100.0
		計	0.12	0.12	0.65	1.10	1.35	7.25
						0	0	22.7
						0.12	0.12	1.66
								100.0

備考 分別風道・分散板回転羽根運転条件は、表1.2とも同じ。

01

02

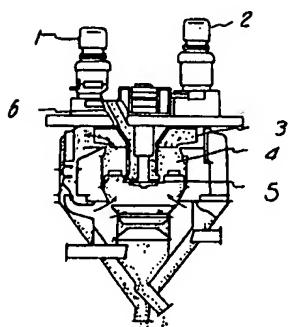
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の分別機の正面断面図、第2図は本発明の1実施例の正面断面図、第3図は第2図の概略図、第4図は第3図中A-A矢視図、第5図は第3図中B-B矢視図、第6図及び第8図は第2図の下部側部分の夫々別々の模式図、2つの実験から明らかにように、本分別機では従来の分別機の長所をそのままもなえ、さらに従来の分別機では分別できなかつた都市ごみ、コンポスト等の大形処理物の分別、回収を可能としたものである。

構成を示す概略図、第7図は第6図中C-C矢視図、第9図及び第10図は夫々都市ごみ及びコンポストの分別フローを示す図である。

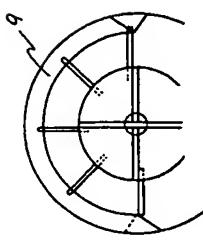
1, 2 ……電動機 3 ……ファン 4 ……分別室 5 ……分散板 6 ……原料供給口 7 ……破碎羽根 8 ……案内板

第1図

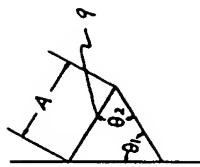


代理人 坂間 晓

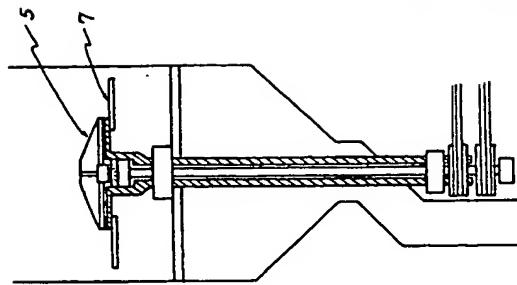
03



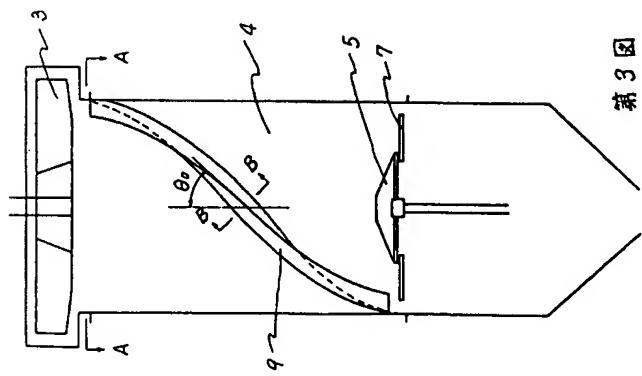
第4図



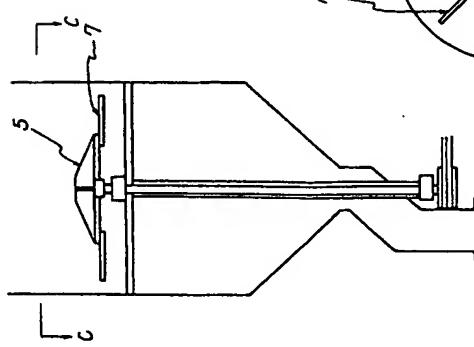
第5図



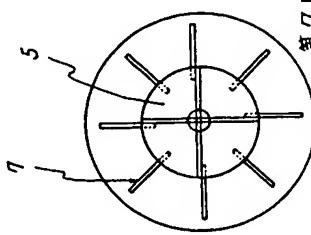
第8図



第3図

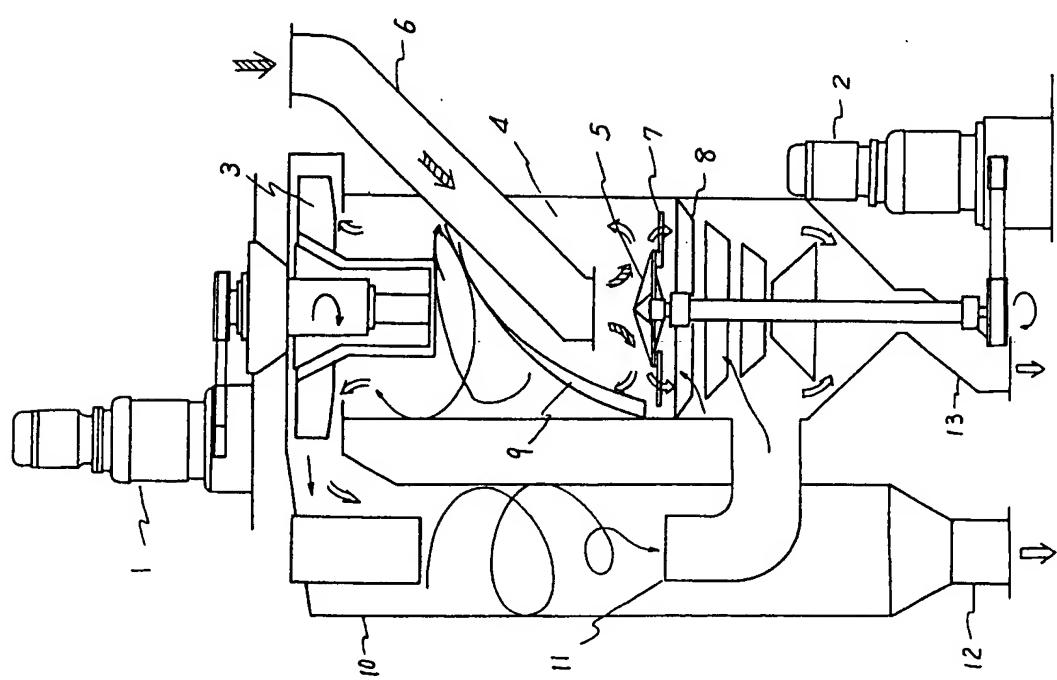


第6図

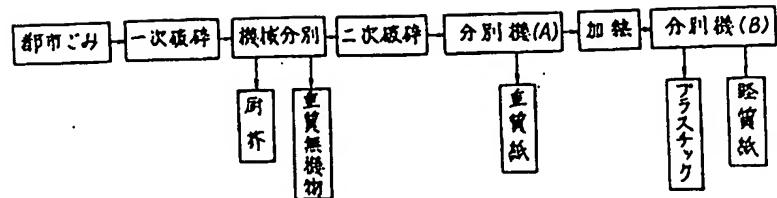


第7図

第2図



第9図



第10図

